

# 瀬戸内海における超長期的生態系・景観モニタリング手法の研究 概要版

## 1. 本研究の主旨(コンセプト)

本研究は、生態系や景観モニタリングにおいて、50年、100年といった超長期にわたる視点で、世代を超えて市民がやさしくできるモニタリングと、誰もが使えるデータの提供を主旨として、新たなモニタリングシステムを構築するため、平成19年度から研究を行っています。

**<主旨>**  
**世代を超えた長期的な『市民がやさしくできるモニタリング』と『誰もが使えるデータ』の提供**

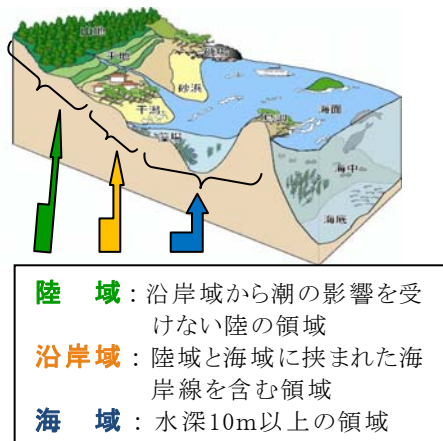


図1 本研究の空間定義

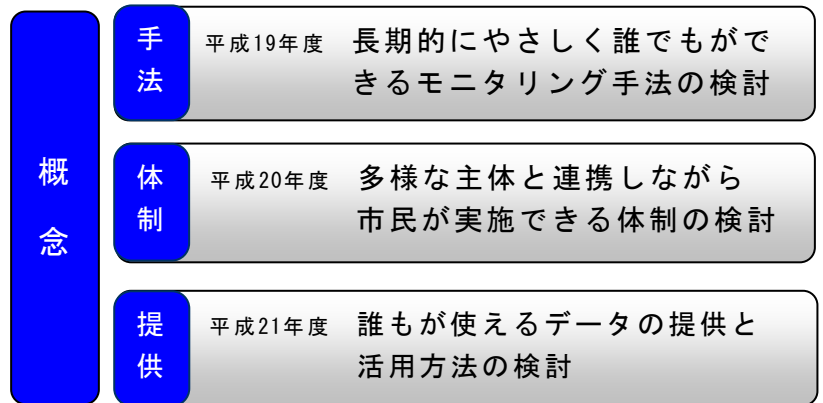


図2 研究の目標

## 2. 研究の内容

本研究の実施体制は図3のとおりです。沿岸域、海域および陸域のそれぞれのモニタリングにおいて、市民が簡易にモニタリングできる手法についての検討や施行を行ってきました。また、広域的なモニタリング体制を構築するために、市民が参加している団体等のネットワーク形成について可能性の検討を行ってきました。21年度は、モニタリングのマニュアルを作成し、さらにはネットワーク形成を行い、得られたデータを市民が活用できるよう提供を行う予定となっています。

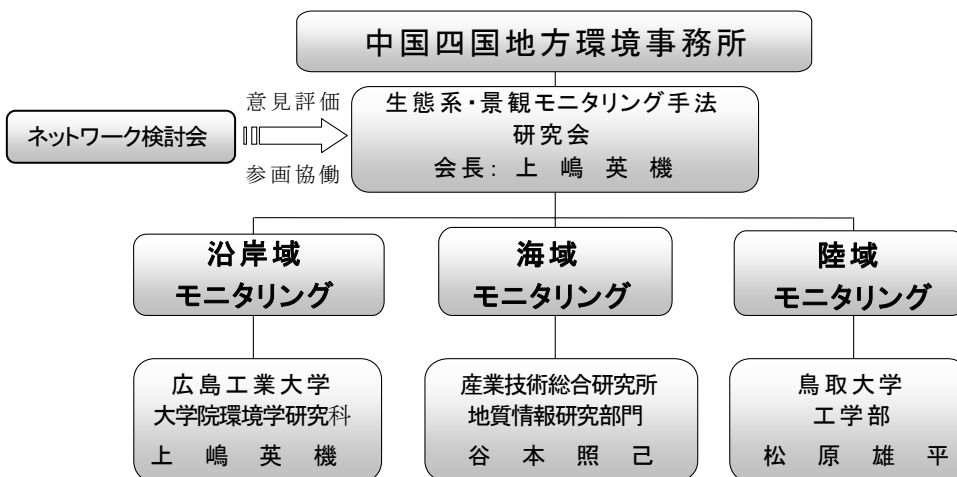


図3 実施体制

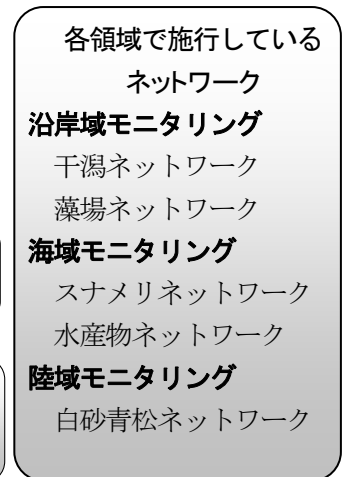


図4 各ネットワーク